

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校	平成8年3月4日	富田 博之	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業 専門課程	システムエンジニア科	平成19年文部科学省告示 第21号	-																			
学科の目的	情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し、高度な知識に加え論理的思考力を身に付ける。また、高度情報化社会に対応した国家資格や各種ベンダー資格を取得し、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマーを目指す。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	昼間	2695時間	1341時間	1354時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
90人	86人	1人	3人	7人	10人																		
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日まで ■後期: 9月1日から3月31日まで		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 「教育目標」に準じた総合評価を行う。評価はS・A・B・C・Dの5ランクとする																			
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏 季: 8月 1日~8月31日 ■冬 季: 12月23日~1月 8日 ■春 季: 3月 1日~ 3月20日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級 条件	ア. 指定科目すべての履修・修得 イ. 学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、授業担当教員により、放課後等に、質問対応、個別やグループ単位での指導、個別相談を行なっている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア等 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) IT業界 ■就職指導内容 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、相談を行っている。 ■卒業生数 30 人 ■就職希望者数 30 人 ■就職者数 30 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティスペシャリスト試験</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 セキュリティ・キャンブ九州 in 福岡 2016 に1名が選出され参加した。				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	30人	16人	応用情報技術者試験	③	12人	5人	情報セキュリティスペシャリスト試験	③	5人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	③	30人	16人																				
応用情報技術者試験	③	12人	5人																				
情報セキュリティスペシャリスト試験	③	5人	1人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 平成28年4月 1日時点において、在学者89名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者88名(平成29年3月31日卒業生を含む) ※ゲームクリエイタ科より1名転入 ■中途退学の主な理由 就職のため、健康上の問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、学校カウンセラーによるガイダンス、家庭への電話連絡や三者面談の実施。		■中退率 1.1 %																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoju.ac.jp/abkc/subject/se/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。また、本校では専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会の意見は、校長代行が主宰する各学科または各系のカリキュラム会議において、カリキュラムの改善(授業科目の新設、改変や、授業方法の改善・工夫)などに行ける限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
富田 博之	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長	H29/4/1 ~ H30/3/31	
高橋 賢二	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長代行	H28/10/1 ~ H29/9/30	
角屋 隆之	北九州市 産業経済局 企業支援・産学連携部 情報・通信産業担当課長	H29/4/1 ~ H30/3/31	①
小峰 正仁	(株)メンバーズ 取締役 兼 常務執行役員	H28/10/1 ~ H30/9/30	③
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H28/10/1 ~ H30/9/30	③
毛利 俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州 教務部 副主任	H28/10/1 ~ H30/9/30	
美田 佳奈	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	H28/10/1 ~ H30/9/30	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

第1回:前期(4月から8月)に開催:前年度カリキュラムの課題について

第2回:後期(9月から3月)に開催:第1回を受けて修正案(次年度カリキュラム案)説明

(開催日時)

平成28年度第1回	平成28年 6月 2日 17:40~18:05 全体会	18:50 ~19:40 分科会
平成28年度第2回	平成28年11月11日 17:30~17:50 全体会	18:45~19:45 分科会
平成29年度第1回	平成29年 6月23日 18:00~18:30 全体会	19:00~19:30 分科会
平成29年度第2回	平成29年11月10日 17:00~17:45 全体会	17:45~18:30 分科会 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会では下記内容で意見交換を行っており、授業などで活用している。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、学生向けセミナーや会社訪問の実施計画 等

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術(特にwebプログラミングに関わる最新の技術)を学ぶ授業を、企業との連携により計画、実施していく。また、完成したプログラム(webページ)を、企業のエンジニアの方と教員と一緒に評価を行っていく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とし、狭い意味での技術だけではなく企業における開発手法や、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等を学ばせる。また連携内容としては、授業のカリキュラム作成、学生への課題内容の検討、成績評価等を企業の方と一緒にやっていく。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
Webデザイン制作演習	基礎技術を学習した後、与えられたテーマのwebサイトを実際に作成、発表を行い、企業の方の講評を頂く。	(株)メンバーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。システムエンジニア科においては、IT業界において必要とされる、実践的かつ専門的な能力を育成するために必要な知識、技術、技能などについて実施される、職能団体や企業が実施する研修やセミナー等に、積極的に教員を参加させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

専門学校講師交流ワークショップ

② 指導力の修得・向上のための研修等

インストラクショナルデザイン研修

アカデミックハラスメント研修

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ICTを活用した先進的授業事例研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

インストラクショナルデザイン研修

クラス運営研修

カウンセリング研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他

(2) 学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5) 学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11) 国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成28年6月2日の学校関係者評価委員会において、企業関係者、高等学校関係者の方より次のような意見、質問をいただいた。

- ・細かい時間配分までの詳細なシラバスの作成は必要ないのではないか？ 学生の理解度に応じた柔軟な対応が必要なので、詳細なシラバスの作成に教員の限られた時間を割く必要はないのではないか。
- ・制作現場と学校の設備環境、特にソフトのバージョンに差が出ている(CG系)。
- ・卒業生の1年後の就業状況を把握」することで教育効果、達成度を測るとしているが、企業からの回答率はどのくらいか？
- ・地元の商店街のHPを作成するなど、専門分野を活かしたボランティアを実施してみてもどうか？

以上いただいたご意見を踏まえ、下記の施策を実施している。

- ・シラバス・授業報告書の作成について、委員の方からのご指摘も踏まえ、書式や運用の最適化を検討する。
- ・設備環境の整備【CG系】については、平成28年9月より最新PC、ソフトウェアを導入し、運用している。
- ・卒業生の就職先を、就職部が中心となって訪問することにより、卒業生の終業状況の確認、企業と卒業生のマッチ具合、就職先企業の社風や求めている人材像のリサーチ等を実施している。この情報を教員と共有することにより、学生と受験先企業のミスマッチを防ぐような就職指導を行っている。
- ・「どのような学生を育てるべきか」という学科ごとの指標を踏まえ、「企業連携」「インターンシップ」の拡充を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
岩本 康明	福岡県立小倉商業高等学校 校長	H29/4/1～H31/3/31	高等学校関係者
小牟田 尚美	ゲームクリエイタ科3年生の保護者	H29/4/1～H30/3/31	保護者
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	H27/10/1～H29/9/30	卒業生
安倍 久美子	地域住民代表	H29/4/1～H31/3/31	地域住民
小峰 正仁	(株)メンバーズ 取締役 兼 常務執行役員	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
上田 浩二	ガレージインク 代表	H28/10/1～H30/9/30	企業関係者
伊藤 洋平	(株)安川ビジネススタッフ 営業企画本部 営業企画課長	H28/10/1～H30/9/30	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asoju.ac.jp/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2) 各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3) 教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7) 学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程システムエンジニア科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎理論	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験取得にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験取得にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			データベース	基本情報技術者試験取得にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ	1前	16		○			○			○	
○			アルゴリズムⅡ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする	1後	76		○			○			○	
○			テクノロジー技術	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ	1後	90		○			○			○	
○			C言語Ⅰ	C言語について、文法と基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			C言語Ⅱ	C言語について、応用知識を学びプログラムが組めるようになる	1後	60			○		○			○	
○			基本情報基礎特別講座(秋向)	1年生の秋受験に向けた、午前対策の授業	1前	30		○			○			○	

○		情報処理試験 講座Ⅰ(春向)	2年生の春受験の国家試験対策授業	1 後	60		○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座Ⅱ (春向)	2年生の春受験の国家試験対策、直前授業	2 前	76		○			○			○	○		
○		情報処理試験 講座Ⅱ(秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策授業	2 前	30		○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座Ⅱ (秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	2 後	60		○			○			○	○		
○		情報処理試験 講座Ⅱ(春向)	3年生の春受験の国家試験対策授業	2 後	45		○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座Ⅲ (春向)	3年生の春受験の国家試験対策、直前授業	3 前	60		○			○			○	○		
○		情報処理試験 講座Ⅲ(秋向)	3年生の秋受験の国家試験対策授業	3 前	30		○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座Ⅲ (秋向)	3年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	3 後	76		○			○			○	○		
○		情報処理活用 Ⅰ	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ	1 前	30					○			○			○
○		情報処理活用 Ⅱ	Excelの関数やグラフ機能など、応用知識を学ぶ	1 後	46					○			○			○
○		データベース 演習	Accessの操作方法を学ぶ	2 前	16					○			○			○
○		実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ	2 前	16					○			○			○
○		Excel VBA Ⅰ	ExcelのVBAを学び、応用力を身につける	3 前	40					○			○			○
○		Excel VBA Ⅱ	ExcelのVBAを使い、より実践的なシートの作成を行う	3 後	30					○			○			○

○		C言語演習	C言語のプログラミング実習を行い、実際にプログラムを作成し、知識を深める	1 後	60				○	○				○	
○		Linux基礎	Linuxのコマンドなど、基礎的なことを学習する	3 前	16				○	○				○	
○		Oracle SQL I	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	1 後	60				○	○				○	
○		Oracle SQL II	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	2 前	60				○	○				○	
○		Visual C# I	Microsoft社のVisualStudioから、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ	2 前	60				○	○				○	
○		Visual C# II	Microsoft社のVisualStudioから、C#のプログラミングをより深く学ぶ	2 後	46				○	○				○	
○		システム構築 I	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際に構築していく	2 後	46				○	○				○	
○		システム構築 II	システムの要求定義～設計～開発～テストを、さらに複雑なシステムを構築して学ぶ	3 前	60				○	○				○	
○		Webデザイン基礎	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ	2 前	60				○	○				○	
○		Webデザイン制作演習	JavaScriptやjQuery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ	2 後	60				○	○				○	○
○		Java基礎	Javaの文法やオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1 後	76				○	○				○	
○		Javaプログラミング	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでプログラミングを学ぶ	2 前	46				○	○				○	
○		Java応用	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでシステムを開発してみる	2 後	46				○	○				○	
○		Webアプリケーション開発 I	web環境で動くアプリケーションの開発技法を学ぶ	2 後	46				○	○				○	

○		Webアプリケーション開発Ⅱ	web環境で動くアプリケーションの開発技法をより深いところまで学ぶ	3前	90			○	○									
○		Webシステム構築Ⅰ	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際にweb環境で動くシステムを構築していく	3後	68			○	○									
○		Webシステム構築Ⅱ	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際にweb環境で動くシステムを構築していく	3後	52			○	○									
○		アプリケーション開発	卒業研究に備え、アプリケーション開発について学ぶ	3後	38			○	○									
○		一般教養Ⅰ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	1後	16			○		○								
○		一般教養ⅡA	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2前	16			○		○								
○		一般教養ⅡB	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2後	16			○		○								
○		一般教養ⅢA	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	3前	16			○		○								
○		文章表現Ⅰ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	2後	16			○		○								
○		文章表現Ⅱ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	3前	26			○		○								
○		時事経済	日本経済新聞を教材とし、新聞の読み方やレポートのまとめ方などを学ぶ	2後	16			○		○								
○		ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ	1後	16			○		○								
○		GCBⅠ	グローバルシチズンベーシックⅠ（感謝心と思いやり）について学ぶ	1後	16			○		○				○				
○		GCBⅡ	グローバルシチズンベーシックⅡ（志をたてる）について学ぶ	2前	16			○		○				○				

○		就職実務Ⅰ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	2 後	46		○		○		○			
○		就職実務Ⅱ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	3 前	56		○		○		○			
○		就職実務Ⅲ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	3 後	60		○		○		○			
○		卒業研究Ⅰ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	3 後	46			○		○		○		
○		卒業研究Ⅱ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	3 後	80			○		○		○		
合計				58科目		2695単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たせない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。